

12月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
 - ・ 輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。
 - ・ 企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、下げ止まりつつあるものの、このところ弱い動きもみられる。
 - ・ 企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業では先行きに慎重な見方となっている。
 - ・ 雇用情勢は、依然として厳しい。
 - ・ 個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
 - ・ 物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

- 先行きについては、当面、厳しい雇用情勢が続くとみられるものの、海外経済の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、デフレや金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しい。
 - ・ 10月の完全失業率（季節調整値）は5.1%で、3ヶ月連続で前月差で低下（0.2ポイント低下）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,615万人で、8ヶ月連続で前年同月差で減少（28万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,271万人で、21ヶ月連続で前年同月差で減少（117万人減）。
 - ・ 雇用者数（原数値）は5,465万人で、8ヶ月連続で前年同月差で減少（77万人減）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.44倍（前月差0.01ポイント上昇）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.78倍（前月差0.01ポイント低下）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は267,297円で、前年同月比1.9%減。